



松本一二美 議員

Q. 町民の命を守る取り組みを!

A. 十分検討していきます

問 防災について
東日本大震災を教訓に今一度、防災に対する見直しが必要

町民の命を守る取り組みの観点から、町の見解を伺う

1. 大地震による液状化現象が問題である。当町の液状化ハザードマップの作成を
2. 津波予想の見える化として、意識啓発のために、校舎や電柱に浸水予想の提示を
3. 災害時の特定姉妹都市との締結を提案
4. 近隣の市・町との間で、防災物資の共同管理を提案
5. 災害時の要援護者の対応推進を
6. 中学生対象の救急講習会の実施を
7. 防災行政無線の音声自動応答サービスフリーダイヤル導入を

答 町長

1. 県作成の液状化ハザードマップの中で、当町全地域が液状化現象の危険度の高い地域とされています。住民の皆さんの関心もあることから、意見交換の場を持ちたいと考えています。

2. 津波の予想の高さを表示するのは、誤解を与える可能性がある中で、標高差の標示を考えています。

3. 検討する中で、相手方があれば考えていく必要があると思います。

4. 町が要請をすれば愛媛県からの支援が可能です。町は、民間の事業者と災害時の援助協定を結んでいます。

5. 現在、町内には1500人余の障がいを持った方がいます。このうち災害時の要援護者として、11名の方が登録しています。万一災害が発生した場合には、地域の自主防災会・民

生委員、近隣の住民の皆さんのご協力での避難所まで誘導することにしています。

6. 中学校ではすでに普通救命講習を実施しています。

7. 20年8月から、防災行政無線の音声自動応答サービスを実施していますが、アピール不足の感があり、PRに努めます。今後、フリーダイヤル化も十分検討します。

問 緑のカーテン事業の拡大を

昨年度実施のゴーヤ苗・ひまわりの苗配布は、緑のカーテン事業拡大のきっかけになった。拡大・普及には一定期間の継続が必要である。町の環境への取り組み



緑のカーテンに挑戦中

答 積極的に推進します

保健福祉部長

の考え方は、ゴーヤの育て方教室や料理コンテストなど新企画も含め、緑のカーテン事業拡大推進を要望しますが、見解は。

緑のカーテンコンテストは今年度も行います。ゴーヤの育て方は、ホームページへの掲載や窓口にチラシを設置します。今年度、松前町の産物を使った食育メニューコンクールが行われる予定です。自分の家で育てたゴーヤもその対象になりますので、工夫された料理が応募されているか楽しみにしています。

その他の質問

◎町長参加の小中学生スクールミーティングの実施を

町では、地球環境問題に対し地域から貢献することを目的に庁舎の省エネ改修、緑のカーテン、バイオマスの利活用、省エネルギーキャンペーン、クールアース・デーへの参加などの事業を積極的に推進しています。